

地域おこし協力隊

新たに2人委嘱

浦幌町の地域おこし協力隊員に、新たに森健太さん（22）と立野里奈さん（22）が4月1日付で委嘱されました。2人はうらほろスタイルの推進に取り組んでいきます。共に学生時代にうらほろスタイルの取り組みに係わり魅力を感じ、応募しました。2人に抱負を聞きました。



立野
里奈さん
(22)



森
健太さん
(22)

立野さんは室蘭市出身で、北海道教育大学釧路校を今春卒業しました。うらほろスタイルの取り組みと相互に協力してきた宮前耕史准教授のゼミに所属し、地域教育を学び、町内での民泊体験や通楽（学）合宿の補助、子ども達の想い実現ワークショップなどに積極的に参加、教育実習も浦幌小学校で行い、子どもたちにもおなじみです。

「これまで浦幌の取り組みにかかわる中で、自分の目標ができた。恩返しがしたい」と協力隊を志望しました。その経験を

森さんは三重県龜山市出身で龍谷大学（京都）を今春卒業しました。学生時代はまちおこしを将来の仕事にしたいと考え、全国を飛び回ってきたという行動派です。

浦幌町との関係の始まりは、昨年、町の地方創生アドバイザーの祁答院弘智さんが代表を務める「リレイション」（徳島市）の事業に関わったこと。9月に開催された「ラーニング・ジャーニー」にモニターとして参加し、浦幌の仕事や暮らしを体験しました。浦幌町の印象は「面白そ

うな人、できごとがたくさんあってわくわくしている」とい、「いろんな人と一緒に学びながら挑戦していきたい」と意欲を燃やしています。

協力隊では若者のしぐさと創造事業を担当します。ハマナス商品開発や、旧常室小を活用したサテライトオフィス実証など、これから発展していく部門の担当となり、「事業化のプロセスを学びたい」と話します。また、自身の持つ全国的な人脈を生かし「リアルな活動を発信していきたい」と話していました。

活かし学校と地域連携を担当します。将来は「うらほろスタイルの教育をもっと学び、経験を活かしていきたい」と目標を語っています。

また、「社会人となり、浦幌に住むことで考え方も変わっていくこともあるかも知れないが、よそ者の視点、外からしか見えない感覚を活かして貢献したい」といいます。

また、部活動で経験を積んできた剣道を浦幌でも続けるなど、浦幌での生活を満喫しようと元気いっぱいです。